

生徒の実態
 令和5年6月に行った食育アンケートでは「いつも朝食を食べる」と答えた生徒は全体の78.8%であり、欠食の理由は「食欲がない」が最も多かった(54.7%)。
 生徒は全体的に食に対して興味、関心があるが、一方、好き嫌いの多い生徒もいる。苦手なものが出た場合にどうするか、という設問では「頑張って全部食べる」と回答した生徒は41.3%であった。

教育目標
 自主自律・創造性
 豊かな心・健やかな身体

第三次食育推進基本計画
 朝食を欠食する割合 0%
 国産食材比率 80%
 学校給食における地場産 30%

食育の視点
 ◆食事の重要性
 ◆心身の健康
 ◆食品を選択する能力
 ◆感謝の心
 ◆社会性
 ◆食文化

食に関する指導の目標

- ① 食事の重要性や栄養のバランス、食文化等についての理解を図り健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付ける。
(知識・技能)
- ② 食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養う。
(思考力・判断力・表現力等)
- ③ 主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養う。
(学びに向かう力・人間力)

幼稚園・保育所
 幼保連携型認定
 こども園

小学校生活への期待感を高め、体験活動を通して、食への興味・関心を育てる

小学校

食の大切さやマナーなど食に関する基礎基本を身に付ける。

各学年の食に関する指導の目標

1年	2年	3年
①食品に含まれている栄養素や働きが分かり、バランスのよい食事を考えることができる。 ②自分の食生活を見つめなおし、バランスの良い食事をとることができる。 ③生産者や自然の恵みに感謝して食事ができる。	①健康によい食習慣について理解し、基礎的な日常食の調理することができる。 ②栄養バランスのとれた食事の必要性を理解し、望ましい食生活を実践しようとするすることができる。 ③日本や外国の食文化を理解し、大切にできる。	①望ましい食事の仕方や生活習慣を理解し、品質や安全性を考慮して食品を選ぶことができる。 ②環境や資源に配慮し、自らの健康を考えて望ましい食生活を実践しようとすることができる。 ③健康な心身を意識して、食に関わる人々や自然の恵みに感謝して、和やかに食事ができる。

食育推進組織(学校保健委員会)
 校長・副校長・保健主任・生活指導主任・食育リーダー・学校栄養職員
 *必要に応じて学校医、学校薬剤師、CS委員

食に関する指導

- 教科等における食に関する指導: 関連する教科等において食に関する指導の視点を位置付けて指導
- 給食の時間における食に関する指導:
 - 食に関する指導: 献立を通して学習、教科等で学習したことを確認
 - 給食指導: 準備から片付けまでの一連の指導の中で習得
- 個別的な相談指導: 肥満・やせ傾向、食物アレルギー・疾患、偏食、スポーツ、食行動に問題がある児童

地場産の活用
 物資選定委員会 年1回実施 構成委員 校長、副校長、給食担当教諭、事務、学校栄養職員
 地元野菜の活用 地元野菜デーや区内農産物を使用する。食育だよりや給食メモ、校内放送で紹介

家庭・地域との連携
 積極的な情報発信: 学校だよりや食育だより、給食試食会、学校給食運営協議会、学校保健委員会など

食育推進の評価
 活動指標: 食に関する指導、学校給食の管理運営、連携・調整
 成果指標: 生徒の実態、保護者・地域の実態